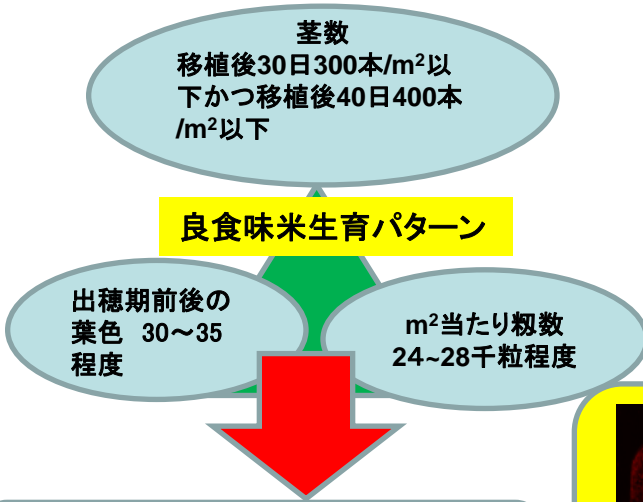


高品質でおいしい「京都産米」の 安定生産技術の開発

(農林センター、生物資源研究センター)

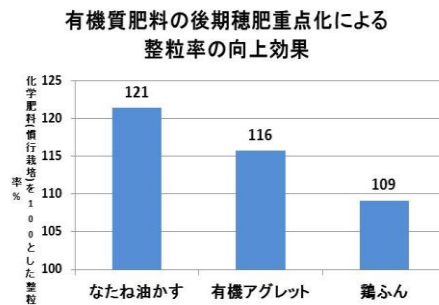
- ・ 中丹～南丹地域の良食味ほ場調査から生育パターンを解明し、良食味米の栽培管理方法を提案しました。
- ・ 有機質肥料の登熟後半の肥効維持による整粒率が向上します。
- ・ 米粒内のタンパク質分布を可視化して、おいしいお米の施肥法を明らかにします。

中丹・南丹地域の良食味米生産のための生育パターン



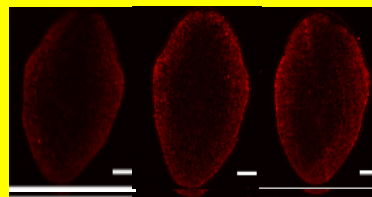
- 初期生育を抑え、有効茎歩合を向上させる。
- 穂肥 I の施肥量で葉色と籾数を制御

丹後地域における有機質肥料の最適な施肥法の検討



● 有機質肥料は前期穂肥(出穂25日前 N:1kg/10a)-後期穂肥(出穂15日前 N:2kg/10a)の施肥体系により、化学肥料による慣行栽培に比べ整粒率がアップ。

タンパク質分布と施肥、食味の関係



少肥 標肥 多肥
良 ← 食味 → 否

● 丹後・中丹・南丹地域の施肥法が異なる米を集積し、順次、タンパク質分布画像と食味との相関を明らかにしている。

- ・ 良食味米の生育の特徴（茎数、葉色、籾数）が明らかに
- ・ 有機質肥料を後期穂肥を重点化して施用すると整粒率が向上
- ・ 施肥法が異なる米を画像化し、タンパク質分布と食味の相関を検討

- ・ 明らかになった生育パターンを基に地域の良食味米推進協会、普及機関と協力し、実証しながら施肥法を明確にします。
- ・ 有機質肥料は肥効が緩やかなので、後期穂肥は出穂の15日前に施用します。